

【コース】 病気の基礎 1

【コースディレクター】

CD : 山田 健人(病理学)

【コースの概要】

「病気の基礎 1」コースは、「細胞生物学」および「人体の構造と機能」コースで学んできた基礎医学系の学習から臨床医学系（「ヒトの病気」コース）の学習への橋渡しとして設定されている。「病理総論」、「薬理総論」と「生体防御総論」の3つのユニットから構成されており、それぞれの視点から、今後臨床医学を学んでいくうえで必要な基盤的事項が教育される。このコースでは病理学、薬理学、微生物学、免疫学の主に総論的事項が教えられ、個々の疾患についての病理や薬物については「ヒトの病気」コースの各ユニット内で扱われる。

【目 標】

正常の人体の構造や機能に関する知識を基に、臨床医学を理解するために必要不可欠な疾病に関する基礎的な知識の修得を目的とする。病理総論では疾患の発生機序とその結果など、薬理総論では薬物の薬理作用や代謝過程など、生体防御総論では免疫学と微生物学の基礎など、を理解する。また各ユニットの実習においては、それぞれの基本的な手技を習得することを目的としている。

【学習方法】

2 学期から 3 学期にかけて講義・実習が行われる。病理学総論では講義の進行に合せ、病理組織学実習が行われる。薬理総論では 2 学期に 3 日間の実習が実施される。

【評価方法】

各ユニットの講義・実習終了後にそれぞれの定期試験（筆記）の実施される。また場合により、レポート、スケッチの提出が求められる。定期試験の成績、実習に関する評価、中間試験・小テスト結果などに基づいて各ユニットの合否が判定される。

受験資格、評価基準、評価方法は学生便覧を参照のこと。